

⑫ 公開実用新案公報(U)

平3-87617

⑤ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 平成3年(1991)9月6日

B 65 D 1/02

B

6671-3E

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全2頁)

⑭ 考案の名称 包装用びん

⑯ 実 願 平1-147019

⑰ 出 願 平1(1989)12月22日

⑱ 考 案 者 安 田 洋 介 東京都品川区西大井6-4-2

⑱ 考 案 者 三 浦 正 樹 神奈川県川崎市多摩区登戸3028

⑱ 考 案 者 吉 野 實 埼玉県比企郡小川町大字原川286

⑲ 出 願 人 東洋製罐株式会社 東京都千代田区内幸町1丁目3番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 菊 池 弘

⑥ 実用新案登録請求の範囲

- (1) びん体の胴部主要部に、びん内部減圧吸収用のたて長に凹設したミラー部を形成し、該ミラー部形成部をラベル部としてなる包装用びんにおいて、前記ミラー部の凹所下部に接続して下方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少くとも1本形成したことを特徴とする包装用びん。
- (2) 上記(1)項におけるミラー部の凹所上部に接続して上方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミ

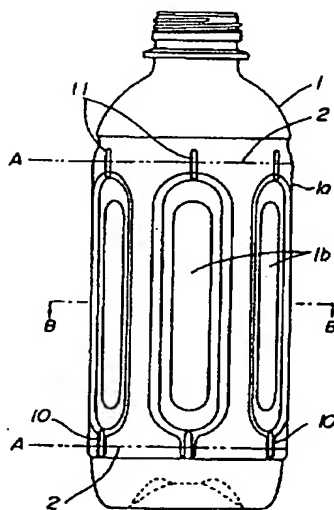
ラー部に少くとも1本形成してなる請求項(1)項記載の包装用びん。

図面の簡単な説明

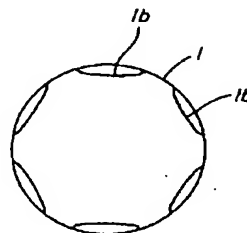
第1図～第3図は本考案の一実施例包装用びんの正面図、中央横断面図、底面図、第4図～第6図は他の実施例の正面図、中央横断面図、底面図、第7図、第8図は従来例の正面図である。

1……包装用びん、1a……胴部、1b……ミラー部、2……ラベル(ラベル部)、10……凹溝(上部)、11……凹溝(下部)。

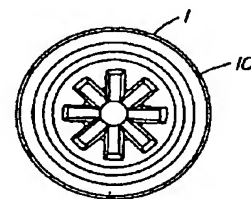
第 1 図



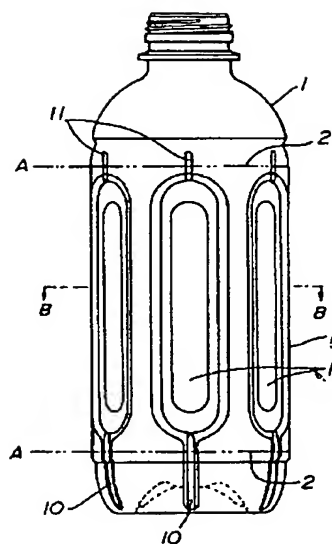
第 2 図



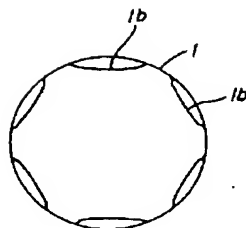
第 3 図



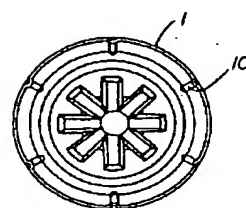
第 4 図



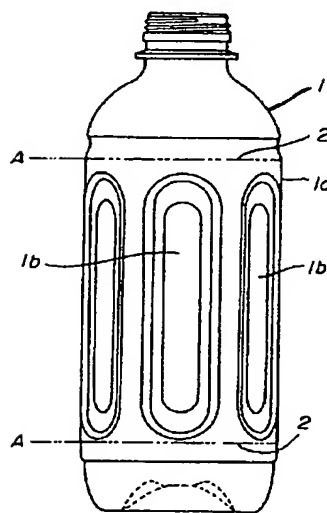
第 5 図



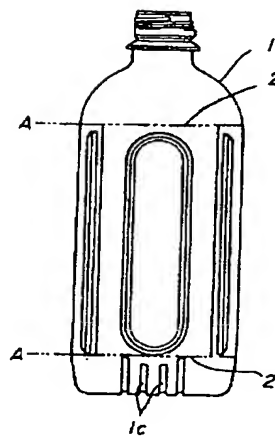
第 6 図



第 7 図



第 8 図



公開実用平成 3-87617

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-87617

⑬ Int. Cl.⁵

B 65 D 1/02

識別記号

B

庁内整理番号

6671-3E

⑭ 公開 平成3年(1991)9月6日

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑮ 考案の名称 包装用びん

⑯ 実 願 平1-147019

⑰ 出 願 平1(1989)12月22日

⑱ 考 案 者	安 田 洋 介	東京都品川区西大井6-4-2
⑲ 考 案 者	三 浦 正 樹	神奈川県川崎市多摩区登戸3028
⑲ 考 案 者	吉 野 實	埼玉県比企郡小川町大字原川286
⑳ 出 願 人	東洋製罐株式会社	東京都千代田区内幸町1丁目3番1号
㉑ 代 理 人	弁理士 菊 池 弘	

明 細 書

1. 考案の名称

包装用びん

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) びん体の胴部主要部に、びん内部減圧吸収用のたて長に凹設したミラー部を形成し、該ミラー部形成部をラベル部としてなる包装用びんにおいて、前記ミラー部の凹所下部に接続して下方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも1本形成したことを特徴とする包装用びん。

(2) 上記(1)項におけるミラー部の凹所上部に接続して上方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも1本形成してなる請求項(1)項記載の包装用びん。

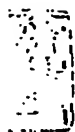
3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は包装用びんの改良に関するものである。

(従来 of 技術)

従来 of 包装用びんとして第7図に示すものがある。



この包装用びん 1 は、その胴部 1 a の主要な部分にその外周を 6 分してびん内部に減圧を生じた場合にその減圧により生ずる胴部 1 a の収縮変形を適切に吸収して異常変形を予防する所謂ミラー部 1 b と称されるたて長の凹所が形成されている。そして通常このミラー部 1 b を含む略 A-A の部分にラベル 2 を巻くラベル部としている。

近年かかるラベルとして、予め適当な印刷表示を施した収縮性フィルム（シュリンクフィルム）が用いられている。

（考案が解決しようとする課題）

ところで上記収縮性フィルムによるラベル 2 は、ラベル部上部及び下部では、胴部 1 a に全周で略密着している。

そして一例として、かかる包装用びん 1 はまず空びんの状態で洗滌され次いで充填形態の一つである所謂ホットパックにおいて、約 85℃ にて殺菌された内容液を充填した後、外部に冷水をシャワー状にかけ冷却が行われる。上記洗滌あるいは冷却時シャワー状に噴射される水は、その噴射に

よる勢いで前記ラベル 2 上部の微小な胴部との間隙から侵入し、前記ミラー部 1 b 内に保持されてしまいもはやこれはエヤー吹き付け等の手段では到底除去し得ない不都合があった。

又上記ミラー部 1 b 内に水分が保持された状態では、本体胴部の肉厚が増加しているものと同じようにその後の冷却水による内容物との熱交換が適切に行われず冷却効率を著しく低下させる原因になっていた。

たまたま実開平 1 - 1 7 0 6 0 5 号には、第 8 図に示すようなミラー部 1 b の下辺部に数本の凹溝 1 c を形成した包装用びんの開示がある。

しかし同包装用びん 1 は、ミラー部 1 b とその下辺部の凹溝 1 c が接続しておらずミラー部 1 b と凹溝 1 c 間の部分 1 d でラベルが密着しておりやはり上述のミラー部 1 b への侵入水は逃げ場が殆んどない。

本考案は、簡単な構成で上述の問題を解決することを目的とする。

(課題を解決するための手段)



第 1 の考案は、上述の如き胴部にミラー部を有する包装用びんにおいて、前記ミラー部の凹所下部に接続して下方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも 1 本形成したことを特徴とする包装用びんである。

第 2 の考案は、第 1 の考案に加え上記ミラー部の凹所上部にも接続して上方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも 1 本形成したことを特徴とする包装用びんである。

(作 用)

第 1 の考案においては、前記ミラー部の凹所下部に接続して下方に延びラベル部外に達する凹溝があるので、上述のミラー部に侵入した空びん洗滌時の洗滌水、冷却時の冷却水あるいは低温充填後の殺菌時の熱水はこの凹溝を伝わって速やかに外部に流れ落ちる。

第 2 の考案においては更に上方の凹溝の存在によって、これが下部凹溝と連通する冷却水流路を形成することになり、前述の冷却水流下を助長し、熱交換率の向上が得られる。これは低温充填後、

熱水殺菌を行なう際も熱交換率の向上の点で同じことが云える。

(実施例)

以下図面によりこの考案の実施例を説明する。尚前記従来の例とミラー部等の基本構成は同一であり同一符号を付して説明を省略する。

第1図～第3図において、10はミラー部1bの下部に接続して形成された下方に延びる凹溝でラベル部2の下方にまで延長している。

又、11は上記凹溝10の他に更にミラー部1bの上部に接続され、ラベル部2の上方にまで延びる他の凹溝である。これら凹溝10、11は1本以上数条であっても良い。

次に第4図～第6図の例は、上記下辺の凹溝10をびん1の下端にまで延長させた例で、これはラベル2の上下方向の巾が、特に下方にラベル巾がが太くなるラベルに対処したものである。

上記下辺部凹溝10のミラー部1bへの接続によって、洗滌水、冷却水あるいは熱水は該ミラー部1b内に封入保持されることはなく、好適に流

下除去される。

又、上記上辺部の凹溝 11 のミラー部 1b への接続によって冷却水あるいは殺菌時の熱水が容易にミラー部に侵入し、下辺部の凹溝 10 のミラー部 1b への接続と相まって好適に除去される。

(考案の効果)

以上の如く第 1 の考案は、包装用びん主体にミラー部を有し、その部分をラベル部としてなる包装用びんにおいて、前記ミラー部の凹所下部に接続して下方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも 1 本形成したことを特徴とする包装用びんであり、又第 2 考案は上記に加えて該ミラー部の凹所上部にも接続して上方に延びラベル部外に達する凹溝を各ミラー部に少なくとも 1 本形成してなる包装用びんである。

従って、上述したミラー部に侵入した洗滌水、冷却水、熱水は、その部分に保持されることなく下部の凹溝を伝わって速やかに外部に流下して排出される。

又更に上方の凹溝の存在によって、これが下部



凹溝と連通する水流路を形成することになり、前述の冷却水あるいは熱水の流下を助長し、前記熱交換率の向上が得られる。

4. 図面の簡単な説明

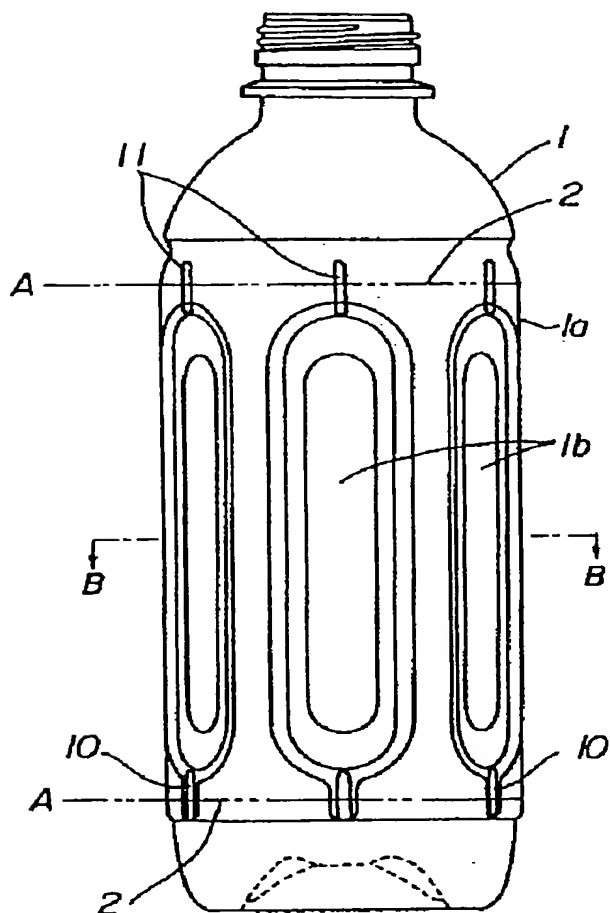
第1図～第3図は本考案の一実施例包装用びんの正面図、中央横断面図、底面図、第4図～第6図は他の実施例の正面図、中央横断面図、底面図、第7図、第8図は従来例の正面図である。

1 … 包装用びん、1 a … 胴部、1 b … ミラー部、
2 … ラベル（ラベル部）、1 0 … 凹溝（上部）、
1 1 … 凹溝（下部）。

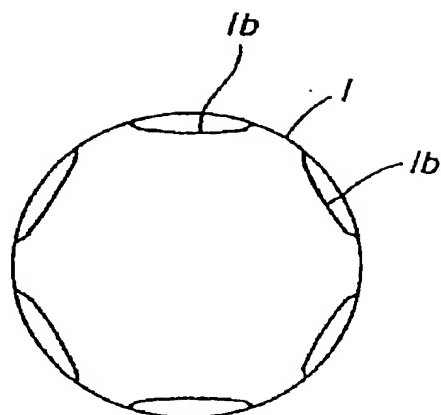
実用新案登録出願人 東洋製罐株式会社
代理人 弁理士 菊 池 弘



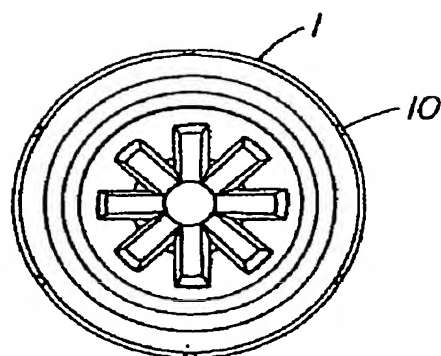
第 1 図



第 2 図



第 3 図



339

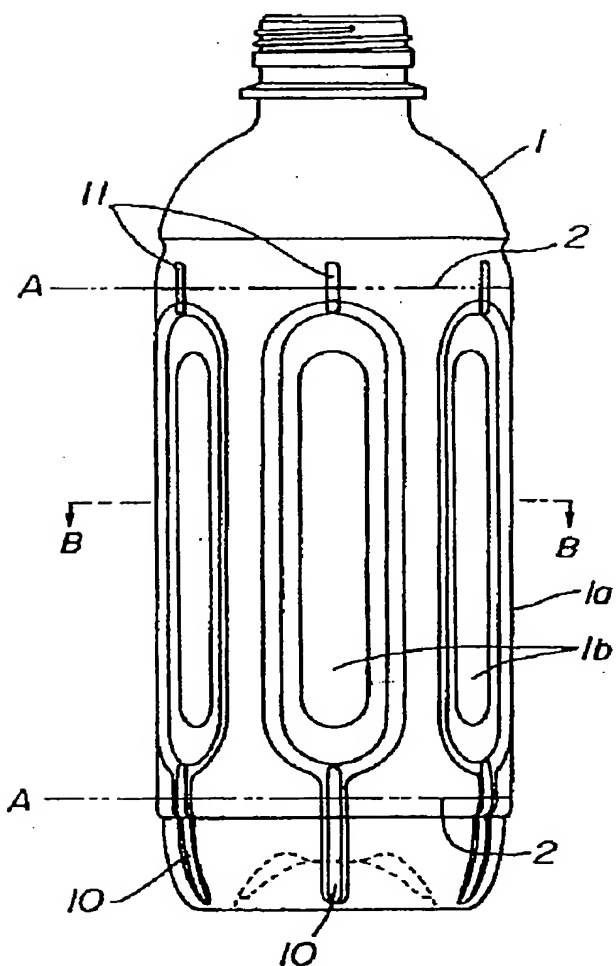
実開 3 - 87617

実用新案登録出願人
代理人

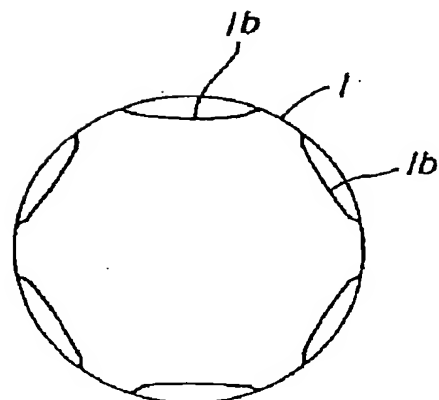
東洋製罐株式会社
井理士 菊池 弘



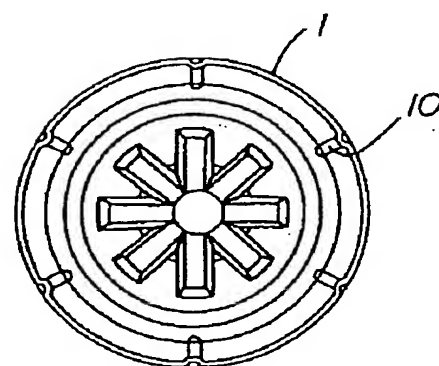
第 4 図



第 5 図



第 6 図



340

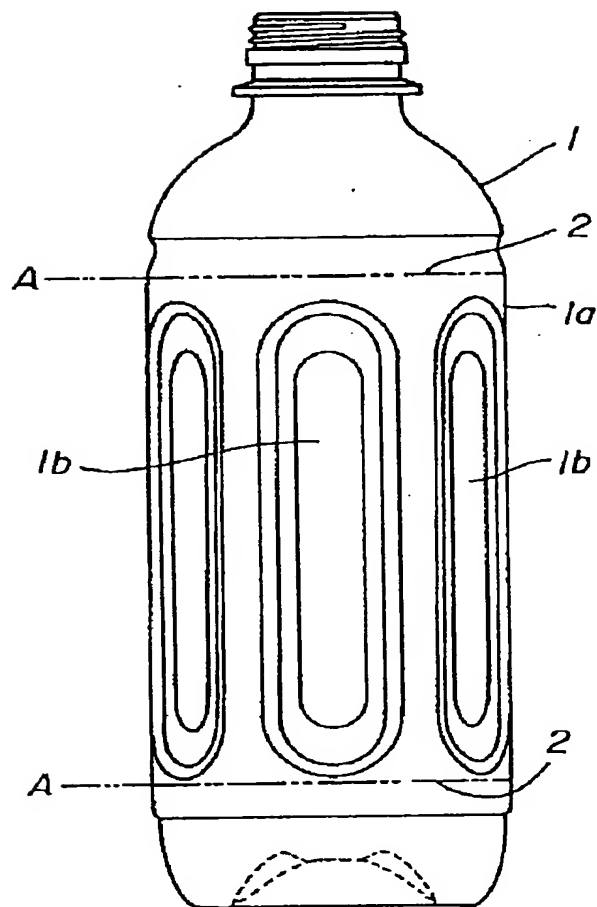
実開 3-87617

実用新案登録出願人 東洋製罐株式会社

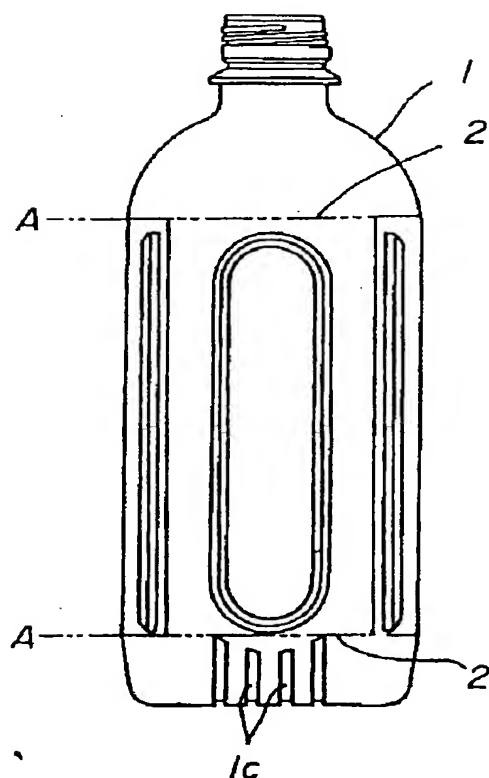
代理人 井理士 菊池 弘



第 7 図



第 8 図



実開 3 - 8761

341

実用新案登録出願人 東洋製罐株式会社
代理人 井理士 菊池 弘

